

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	62 -	事業名	老人憩の家管理事業	担当部課	福祉部長寿課
------	------	-----	-----------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	2	老人福祉費
		政策分類	3	地域にある施設の活用を推進する	大事業	6	老人憩の家管理事業
	その他(関係法令、要綱等)	長久手市老人憩の家の設置及び管理に関する条例					
事業開始の背景、経緯等	地域の高齢者の交流、憩いの場を設置し、高齢者の心身の健康の増進を図るため老人憩の家を設置した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 地域の高齢者の交流、憩いの場として、適切な環境整備、運営管理を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満60歳以上の市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 施設を広く活用してもらうことで地域での交流を深めてもらう。					
	事業を構成する事務事業	① 老人憩の家管理事業	現状維持	④			
		②		⑤			
		③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		2,412	2,265	2,286
決算					2,067	1,770	1,798	
人件費(B)	千円	決算		671	764	805		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			2,738	2,534	2,603	

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 施設利用者数	人	目標		4,500	4,500	6,000	6,400
実績				4,558	6,013	6,408	7,177	
B		目標						
		実績						
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 市内の老人憩の家(7施設)の利用者数。(前年度実績を元に目標を設定)								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様の施設を設置している。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標値を達成しており、高齢者の交流、憩いの場として活用されている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 地域によって施設の利用率に差異があり、高齢者だけでなく地域の多世代の交流の場としての活用を検討していく必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域サロン等の地域活動の拠点として、高齢者だけでなく、地域の多世代の交流の場としての活用を検討していく必要がある。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 多世代交流の場として利用が始まっている施設もあり、今後、5年間で同様の取組を他の施設においても行われるようにしたい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		老人憩の家管理事業									
番号	①	事務事業名	老人憩の家管理事業	款	3	項	1	目	2	大事業	6	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和54年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 満60歳以上の市民 【内容】 地域の高齢者の交流及び憩いの場所として、適切な環境整備、運営管理を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	施設を幅広い用途に活用し、地域での交流を深めてもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		2,412	2,265	2,286	2,228
		決算		2,067	1,770	1,798	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 老人憩の家管理委託						490	千円
② 光熱水費						513	千円
③ 放送受信料						270	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設利用者数	人	目標	4,500	4,500	6,000	6,500	7,000
		実績	4,558	6,013	6,408	7,177	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
【各施設の年間利用者数】		楓老人憩の家	1,433人				
		色金老人憩の家	524人				
		睦老人憩の家	654人				
		茜老人憩の家	2,230人				
		老人憩の家椿荘	1,187人				
		老人憩の家永和荘	656人				
		老人憩の家さつき荘	493人				

4. 事務事業を取り巻く環境変化

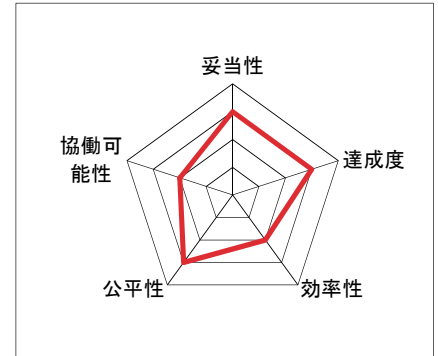
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
まちづくり協議会、地区社協の設立等、地域における世代を超えた繋がり、取組が広がっており、老人憩の家も多世代が利用、交流できる活用が求められている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
地域の高齢者や多世代の交流の場として、まちづくり協議会とも連携し、管理、活用方法を検討していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
網戸の設置や、物置の設置を行った。 また、サークルやサロン、市の事業を開催し、交流の場として活用している。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	2



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
シニアクラブの新たな活動としてクロリティ（輪投げ）に取り組んでおり、各施設において体験会を実施した。保育園児を招待しての体験交流会を実施した施設もある。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
施設によって利用日数、利用者数に大きな差があるため、利用の活性化を促す必要のある施設もある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
施設利用の対象を高齢者だけでなく、地域の交流の場として、多世代が多様な目的に利用できるようにする。